

QUICK COMMUNICATIONS

クイック コミュニケーションズ

略して
クイック……っ

PRESENTED BY MOMINOKI

ADULT ONLY

QUICK COMMUNICATIONS

クイック コミュニケーションズ

略して
クイック……っ

PRESENTED BY MOMINOKI

風越 育美

P.5~



音羽 茉莉

P.13~





育美ちゃんの一団

A.M.7:40

今朝はお兄ちゃんと痴漢プレイです。

私のパンツは期待でヌルヌル♪

他人のふいで電車に乗り込んだあと、
さっそくお兄ちゃんは制服のスカートの中に

手を入れてきます。

クロツキの内側に一杯溜まった愛液を
指で確認するように割れ目に沿って往復させた後
すぐはお兄ちゃんはお尻をまさぐり始めました。

もう、昨夜だっていいお尻の中に射精したのは
本当はお尻が好きな困ったお兄ちゃん…☆

その指はパンツの上から肛門を執拗にこね回します。

私は、当たり前のようにお尻の力を抜いていました。

あぶぶぶっ☆

お兄ちゃんの指は、少しずつ肛門にめいこみ込んできました。

肛を縮くようにゆっくりにゆっくりにクロツキを伸ばしながら

あらかじめローションを注入してある私の肛門の中に進入して来ます。

私は少し身震いをしちゃいました。

こんな大勢の中で、お兄ちゃんに指でお尻を犯されてる…

私は、キュッキュッとお尻の穴をすぼめてみます。

それは、『もっと奥まで入れていいよ☆』の合図♪

第一関節まで入っていた指をさらに押し込むお兄ちゃん。

布は限界まで伸びきって肛門の皺と同じ形に張り付いているみたい。

私は身もたえして、電車の中で軽く絶頂を達します。

そして、お兄ちゃんは私にこう言いました。

「今日はケツの穴にバンティを食い込ませたまま授業を受けるんだぞ。」

私はお兄ちゃんの顔を見上げ、にっこり頷きました。

A.M. 11:20

私の肛門はあれからずっとパンツの布を挟み込んでます。
とある毎にそれが気になって授業に集中出来ないから困っちゃう。

しかも、今度は板書はっかいの退屈な授業。

ああ、お尻の穴が疼いて気になるよぉ…

私は、ほんのちょっとだけスカートの中に手を入れて確かめてみました。

ああ、凄い…愛液がぐんぐん出てきてるぅ…☆



凄い量の愛液がクロッパの外側まで染み出して、

お尻の穴はヒクヒクと狂おしく伸びた股布を咥えています。

ああ、もう私おかしくなっちゃうよぉ…☆

私は家であるように、鉛筆の後の部分を愛液に絡めると、そのままお尻の穴に挿入してみました。

その鉛筆は、びっくりするくらいスムーズにお尻に飲み込まれていきます

溶まっていた穴が徐々に広がっていく感触は何度味わっても飽きることはありません。

授業中だというのは、私はいつの間にかパンツの中を手を突っ込んで一心不乱に動かしていました。

P.M.1:20

五時限目の体育の授業中、私は呼び出されました。

急用でお兄ちゃんが会いに来てるんだそうです。

私はすぐに何の用なのか理解して、お兄ちゃんの待つ校門へ。

それから二人で校舎の裏の誰も来ない場所に移動しました。

お兄ちゃんは、ほんのい汗をかいた私の姿に興奮してるみたい。

私は壁に手をついてお尻をお兄ちゃんに突き出しました。

お兄ちゃんは当然のようにつぶしの脇から私の中へ...

体育の前におトイレで愛液をちゃんと拭き取ったはずなのに

お兄ちゃんのお肉の棒は簡単に私の中に入り込んできました。

私の膣内に、期待通りの快楽の波が押し寄せてきます。

朝からずっと欲しかったモノが、今与えられました。

肉壁を押し分けて進み限界まで固くなった電頭。

出て行くときには壁に溜まった愛液をこそき取るように

激しく私の肉壁を引っ掻いてくれます。

あまの快感に、私の子宮はびりりと身震いしました。

私はまた前よりイきやすくなったみたいです。

お兄ちゃんは、私をじらすようにゆっくり腰を動かします。
どうやら本当にイクのはお家までおあけみたい。
自分もイク寸前で腰を止めて、少しでも多く私の中で往復あるつもりです。
ああ.....私の中...そんなに好きなの...?
射精を我慢してまで、ずっと入っていたいって事なの?
家でもずっとズボズボしてるのに、それでも足りないの?
わをわを学校まで来て、授業サボって寸止めセックス。
お兄ちゃんの手...エッチ、えっち...☆
私のお兄ちゃんはホントにエッチ過ぎで大変です。
.....でも、私もホントはお兄ちゃんと同じです。
いつまでも、出来れば永遠に繋がっていたい。
大好きな、お兄ちゃんと。

D.M.4:15

私が学校から帰って来ると、お兄ちゃんは部屋で待っていました。

お兄ちゃんは、私を部屋に招き入れると

私のカバンから勝手に愛用のローターを出して

食い込んだままのパンツのお尻にあてがいました。

ローターはパンツの股布ごとお尻の中に簡単に入って来ます。

今日あっといきたいのにイかせて貰えなかった敏感な私のアソコは、

おちんちんを欲しがって固く濁った本気汁を垂れながしています。

私の膣は机の角に沿って勝手に動き始めました。

お兄ちゃんは、再び角を始めた私のお尻に

ビデオカメラを向けて撮り始めました。

やだ…、近すぎるよお…☆

私がそう言うのも聞かずに、

お兄ちゃんはローターのスイッチをオンにしました。

括約筋の途中に引っかかったままのローターが

いきなり暴れ出しました。

私の膣門はヒクつきながらそれを奥に飲み込もうと動きまわります。

でも、パンツの布はすでに伸びきっていて、

それ以上飲み込ませまいと抵抗しています。

私の穴は完全に開くことを許されず、それでいて入り口付近の布のこられる刺激で

せつなくキーンキーン開きようとしています。

…ああ、私のお尻ってこんなにエッチだったんだ…☆

半開きのままお尻の中一番感じる部分を執拗に責め続けられて、

いつの間にか私は淫乱モードになっていました。

カメラに向けてお尻を開いて見せたい、派手に膣を振りたい、

お兄ちゃんが激しく勃起するように挑発的な動きでお兄ちゃんを誘惑します。

そのたびに軽い絶頂が私を襲います。そしてその絶頂は次第に継ぎ目が無くなり…

大きな波になっていきました。

今までで最大の絶頂が来る瞬間にも、私はカメラに向かって自慢のヒップを突き出して、

お兄ちゃんに精一杯の笑顔向けました。

夜になって私たちはどこかの公園へやって来ました。
私は学校の制服のまま、お兄ちゃんに抱かれて行きます。
茂みの多い人気のないペンキ屋の下ろすと、
お兄ちゃんは私にスカートを脱ぐように言いました。
私はお兄ちゃんの前で立つと、素直にそれに従って
制服のスカートのホックを外してサイドのファスナーを開けます。
スカートはそのままストンと私の足首まで落ちました。
今、私はセーラー服にパンツ姿で立っています。
クロッチは私の愛液を何度も何度も吸収して
バリバリになっていました。

それでも、夜とはいえ公園の中でスカート無しでいる事実に
愛液が乾いて張り付いていたクロッチはすぐにはヌレヌレです。
お兄ちゃんは今回一回活躍したパンツを横にあらして挿入してきました。
ああ、私やっぱりこれが好きなんだ…いけない兄妹でのセックスが。

……………
今何か私の背後で誰かのさわめきが聞こえたような…?

その刹那、フラッシュが光りました。

誰かが…覗いているの…?

しかも撮影までされてしまったみたい。

それでもお兄ちゃんは平然と腰を動かし始めました。

すると、茂みの中が一層騒がしくなってきました。

私たち兄妹の秘密の行為を覗いてるのは一人じゃないみたいです。

『おげえ、ホントに中〇生とやってるよ…』

『しかもあの娘、妹なんだってよ。』

『マジで！？おげーうらやましい…』

『あーあ、俺もあんなエロい妹欲しいなあ』

いつの間にかががなり至近距離から
私たちの結合部に向けてフラッシュが焚かれています。

お兄ちゃんは射精しながらも突くのをやめません。

あひい、あひい…癖になっちゃいそうだよあ…

私はおげとお兄ちゃん、お兄ちゃんと呼びます。

膣肉はすでに何度も執拗に射精されて、結合部がぐちゃぐちゃと精液の泡を立てていました。

ああ…見て…私の肛門もアソコも、それと近づく近親セックスで激しくイっちゃう所を…見て☆

お兄ちゃんは一層深く挿入したかと思うと、私の中にまた大量に射精をしました。

私は見せつけるように振げられたお尻にフラッシュの光を浴びて、今までで最高の絶頂を迎えました。

ある日の放課後、誰もいない教室には
机のきしむ音とローターの音。
そして熱しい呼吸音。

私はいつものように自分の机に又し又しクロツキを
熱しく擦りつけて角マシオナニーをしながら
お兄ちゃんがどこへ来るのを待っていました。

今日もあの公園に行くみたいです。
後から聞いたら、あそこは覗きのメッカで、
公園でエッチする人たちはそれを見せるために
来ている人たちが多いいだそうです。

どうやら私は見られて興奮するタイプみたいです。
自分では分からなかった性癖なのね、お兄ちゃんにはバシバシでした。
それね、私はしエッチ願望もあるみたい。
でも私、お兄ちゃん以外の人とはセックスしたくないなあ…
お兄ちゃんに見られながら知らない人に見られちゃうのは
ちょっと興味あるような気がするけど。

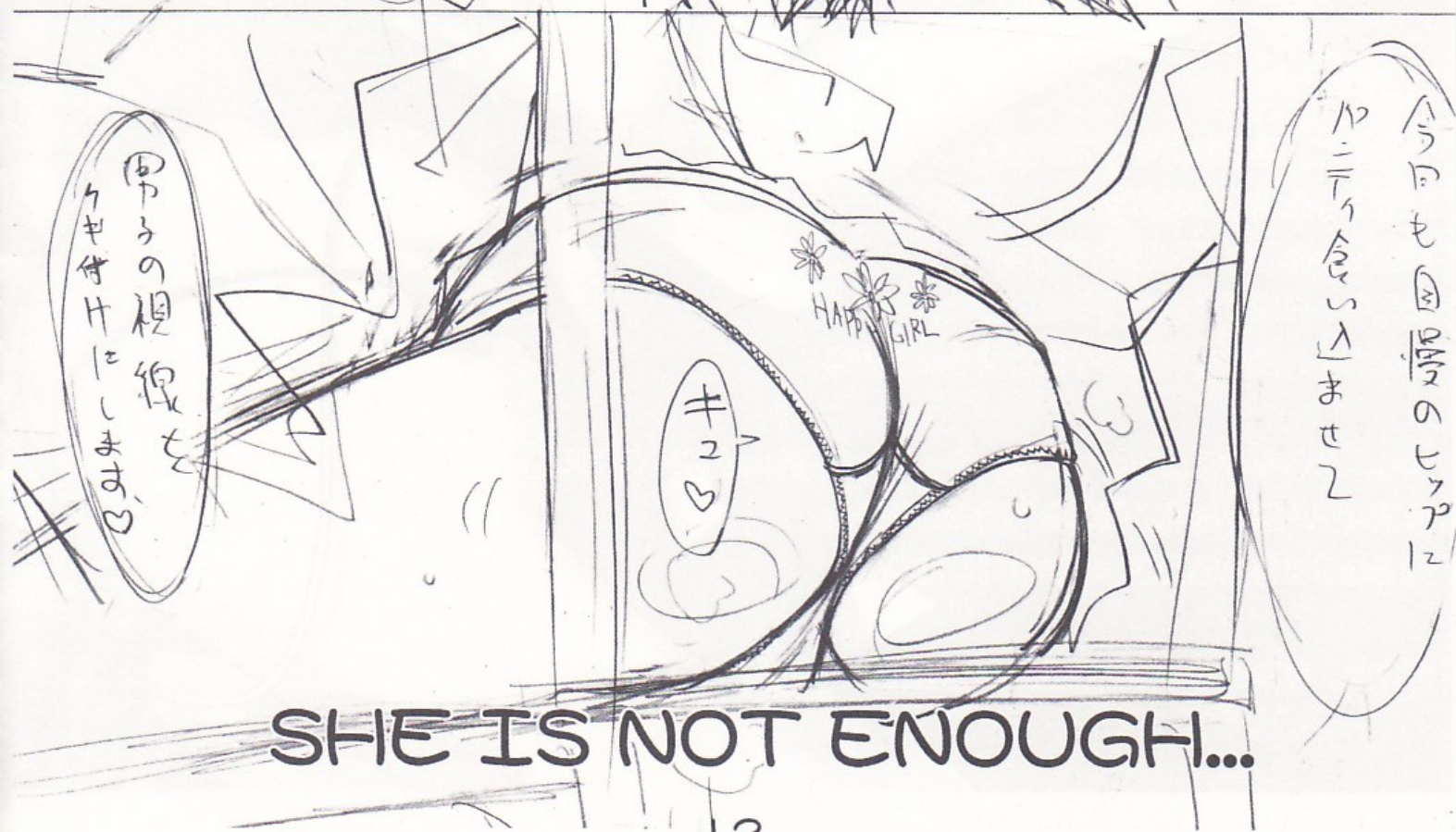
え？私って十分変態ですか？

とにかく、私はお兄ちゃんが好き
お兄ちゃんを想いながらオナニーするのが好き。
お兄ちゃんに抱かれるのが好き。
お兄ちゃんにイかせて貰うのが好き。
お兄ちゃんにクリームパイして貰うのが好き。

他の人とセックスしちゃうっても、やっぱりお兄ちゃんが一番好き☆
ただの恋人だったら、別れたら終わりだから、
兄妹の絆はそんなに簡単に切れないしですね。

だから、また私たち仲良し兄妹を覗きに来てくださいね☆

おしまい



茉莉ちゃんと遊ぼう！
(夏休み編)



夏の朝。

俺はカーテン越しの日差しと
左半身にかかるわずかな重みで目を覚ます。

……………またか。

いつの間にか俺のベッドに入り込んできたらしい。
茉莉は俺をびったりとくっついて寝息を立てている。

今日から夏休み。

昨夜は遅くまではしゃいでいたので
今日は少し寝坊気味だ。

俺は茉莉の髪を撫で、鼻を近づけてみる。
シャンプーの香りに紛れた少女特有の甘い香りが
鼻孔をくぐった。
左手には柔らかな木綿の感触。

ほんのり汗をかいた背中を撫でると、
茉莉は「ふにゅう」と甘えるような声を出した。
とうやらまだ起きる気はさらさらないらしい。
少し左手が痺れてきたような気がするがまあいいだろう。
俺は茉莉にお似合いの苺のパンティに包まれているお尻に手を伸ばした。
中央部のお尻の割れ目に指を這わしてみる。

お尻の谷間は少し汗ばんでいて
パンティがびったい張り付いていた。
特注で俺が作らせたちょい薄手のパンティはジャストサイズで
しっかり食い込んだオリオリ全開の苺柄パンティは、
朝の光に照らされて尻の凹凸の陰影を濃く演出している。
パンティ越しに肛門や性器の位置も形も一目瞭然だ。

不意に、茉莉は寝返りをうち、脚を俺の上に乗せてきた。
パンティは斜めに捻られ、卑猥な皺を刻んでいる。
可愛らしい子供用パンティの苺柄と淫猥な皺のコントラストが
俺の理性を今にも吹き飛ばしてしまいそうだ。

俺はこれからの茉莉との日々を思いを馳せ、
己のペニスを限界まで固く、大きくする。
茉莉以外でここまで俺のモノを怒張させた者はいない。

……………俺は、この可愛い小悪魔に魅せられてしまったのだ。
実の娘だと言うのに…………

今回は茉莉と夜のドライブに出かけた。一杯お昼寝させておいたのも茉莉もご機嫌だ。

目的地まではゆうに一時間はかかるので、茉莉が退屈しないように

趣向を凝らした遊びをしてやろうと思っていた。

茉莉を後ろ手で縛ってやると、茉莉は興味津々に尋ねる。

「ねえババ、茉莉を縛ってなにをするの？」

俺は茉莉があんまり可愛いから誘拐されちゃったという

設定で進行することを説明してやった。

遊び好きの茉莉は喜んで乗ってくる。

俺は縛られて立ってる茉莉のショートパンツを脱がせた。

「やーん、おちさんのエッチー!!!」

茉莉はノリノリで父親の俺をおちさん呼ばわり。

夜で車の中だから、下はパンツ丸出しでも問題ない。

「それじゃあ、茉莉ちゃんにこの嬉しいのを入れちゃうぞ♪」

俺は、買っておいたグロテスクな形のバイブを

茉莉に見せつけた。

「わあ、すごい形〜♪」

「それじゃあ、この玩具で着くまで遊んでいようね♪」

「は〜い☆」

俺が茉莉にバイブをあてがうと茉莉は期待に目をウンランと輝かせて挿入を待った。

ズリズリや段々の一杯ついたエロバイブは、

まるで当たり前のように茉莉の媚肉に埋もれていく。

手を縛られた茉莉は口を笑った形にしたまま、

呼吸を徐々に荒く変化させていった。

しばらくして不意に助手席をみると、

茉莉は笑ったまま俺を見つめていた。

しかし、その股間には大人用のバイブが収まっている。

ときおり俺を誘うように腰をくねらせる。

引っ張られて歪んだオリバンティがバイブと一緒にあって

ウインウインとダンスを踊る。

そして時折、窓の外に見せつけるようなポーズ。

茉莉は今回一回自分を包んでいたバンティの、

あつてはならない形に変形した様を楽しみかのように

無邪気な笑顔で股間に蠢く苞模様の布を見つめていた。

とある夕方。

俺と娘の茉莉は自宅のバルコニーでいつものように繋がって

夕食後の親子のスキンシップを楽しんでいる。

茉莉はパンティも脱がず俺の上に戻ると、お気に入りの蕾パンティを少し横にずらして

俺の固くなった勃起ペニスをあぶあぶと飲み込んでいった。

まだ毛も生えていない茉莉の性器は完全調教済みで

大人の大きなペニスでも問題なく根本まで挿入することが出来る。

茉莉はセックスが本当に大好きなのだ。

放っておいても勝手に膣を振って俺のペニスを出し入れする。

まさかここまでになるとは思わなかった。

痛がったり、怖がったりそれはやめるつもりだった。

だが、茉莉は違った。

自分から次々と新たなプレイを教えて欲しがった。

茉莉にとって、これは遊びなのだ。

パパと二人でする秘密の楽しい遊び。

「それでね、今日友達の○○ちゃんがね…」

茉莉は、俺に他愛のないおしゃべりをしながら、
長いストロークで動いている。

元気にキコンキコン締め付けながら

若い肉穴で快感を楽しみながら。

ぐちゃぐちゃと音を立てて父と娘の粘膜が絡み合う。

俺にとっても何物にも代え難い最高の時間だ。

愛しい娘の膣壁が男根を包み込み、射精させるべく締め上げる。

下半身で繋がってながらも親子の会話を続けている。

精管から徐々に精液が昇ってくるのが分かる。

とうやら俺の方の絶頂が近いようだ。

俺は、一層激しく愛しい茉莉を突き上げてやった。

すると茉莉はいきなり膣の動きを止め、

俺にこう言った。

「パパ、茉莉ね、欲しいゲームがあるんだけど、買って欲しいな☆」

そして茉莉は俺の雁首を締め付けながら、まるでつエウをするようにチユバチユバと弄んだ。

…こいつはやはい、小悪魔だ。

俺は射精したいのに耐えられない状況に耐えかねて、首を縦に振るすにはいられなかった。

ここはデパートのトイレの中。

俺は茉莉の小振りの尻を抱えて肉壺の中へ侵入していた。

茉莉はトイレのしかかるようにしてお尻を俺に向けている。

パンパンパン、と男女の膣がぶつかり合う音がトイレ中に響く。

茉莉も思わず呻き声を漏らす。

今回はあえてノーパンでお出がけさせた。

さすがに茉莉も忍れには興奮気味のようだ。

道中、ミニのスカートを抑えながら

何度も何度も俺にセックスがしたいと

おねだりしてきた。

この年齢で、茉莉は立派なセックスマニアだ。

セックスの味を知ってしまった身体の疼き。

絶頂を経験する度にもっともっと欲しくなる。

それで仕方なく、近場のデパートのトイレで

近親ファックと相成ったと言うわけだ。

茉莉は、我が意を得たいと言うように
父親のペニスを堪能している。

愛液も便器の蓋に垂らして、

俺に突かれながらぐびゅとガバブッと卑猥な音を立てる

自分の肉穴を穿つ快感を嬉しそうに味わっている。

不意に俺はちょっとした悪戯を思いついた。

俺は突然ピストン運動を止め、茉莉のおマ○つからペニスを引き抜いた。

何度も何度も往復されて泡だった愛液とかウバーの混合液がトロトロと垂れてくる。

「あ〜ん、パパぁ良いところを止めちゃダメだよぉ…。」

俺は茉莉の不平も聞かず、今まで性器に入れていたヌルヌルの肉棒を茉莉のお尻にあてがった。

「茉莉、パパはおしっこしたくなっちゃったんだ。」

「え〜？もう、パパったらしょうがないなぁ…。」

そう言うと茉莉はお尻の力を抜いて、当たり前のように肛門で俺を吞える。

俺は腸壁を搔き分けてギツギツ根本まで茉莉の中に入ったのを確認すると、

チヨロチヨロと茉莉のお尻の中に放尿を始める。

何か先端に当たる物があるが、まあいい、後で一緒に出させればいいことだ。



今日は朝から暑いので茉莉と水遊びだ。
だが、茉莉も大きくなったので
ビニールプールもだいぶ手狭になった。
俺は茉莉を抱っこするようにして
水に浸かっている。
まあ、俺たちが普通に水遊びするわけもなく
趣向を凝らしてあるのは言うまでもない。

茉莉と俺の身体はローションでヌルヌルになっている。
夏だからクールローションをチョイスしたところが通だ。
茉莉の乳首はすでにピンピンに勃起している。
中々感度の良い乳首だ。
普段から乳首クリップや乳首リングで絶えぬ刺激を与えているだけはある。
乳房が小さめだけに勃起した乳首はとても存在感があっというらしい。
今年の運動会もノーブツで乳首ツンツンにして競技に出させよう。
そう心に誓うと、俺の股間はさっきより硬く大きくなった。

「あーっ、ババのおちんちん、茉莉の中でまた固くなってきたあ♪」
茉莉はそれを目ざとく気づくと、またうれしそうに上下運動を始めた。

濃いめにローションを溶かし込んだ水の中で、俺たちは繋がっている。
朝から茉莉の肛門に三回も射精しているというのに、まだまだ収まらない。
茉莉の身体は日々いやらしくなっている。
肛門での絶頂を知ってからあっけいお気に入りになったようだ。
今日も自分から肛門で啜え込んできたくらいだ。

もう俺は茉莉無しでは生きていけないと思う。

俺のペニスは、茉莉の虜だ。

そして茉莉もきっと、俺のペニスの虜なんだろう。

俺は茉莉をズボズボ突き上げながら、思い出した。

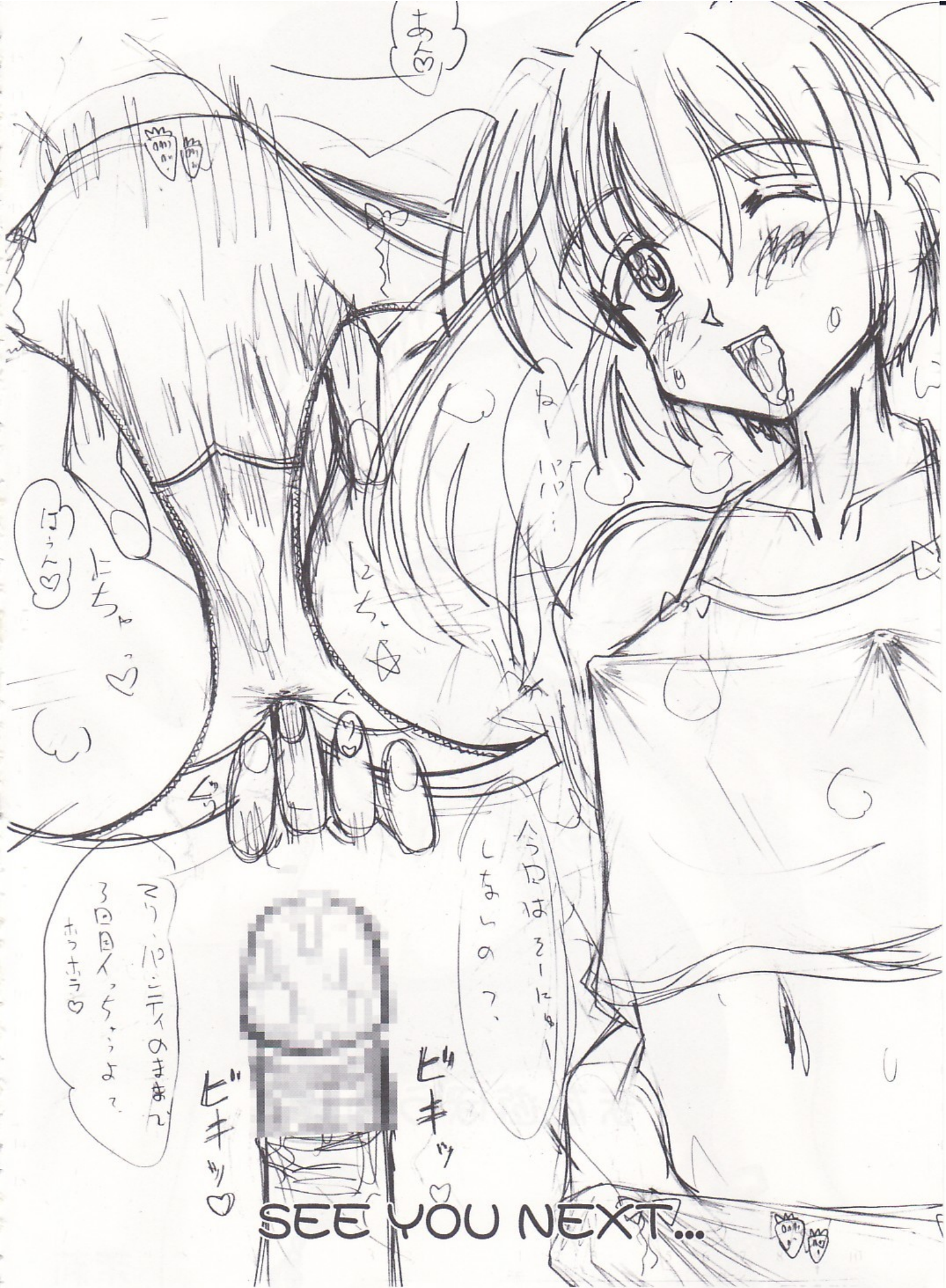
そろそろ家に戻って茉莉の夏休みの宿題を手伝ってやらなきゃな。

茉莉を睦の上に座らせて、肛門を挿入したままで…



また遊ぼうね☆

茉莉



このたびは当サークルの

『QUICK COMMUNICATIONS』を

お買い上げ頂きましてありがとうございます。

こうしてオリジナルで本を出すのは初めてだったと思います。

ええもう、版權物の方が取っつきやすいということは分かっております。

それでも描かずにはいられなかったのです。

お陰でこんなに世間的に残念な結果になってしまいました。

お父さんお母さんごめんなさい（遠い目）

…とにかくですね、この本は自分でも十分実用に耐えました（何）

でも皆様方が使えるかどうかは分かりませんのでお好きにどうぞ。

っていうか使えることを祈っております。

字が多すぎて見えないとか字が読みづらいとか色々あるかも知れませんが

次出るときには改善いたしたく存じま〜あ☆

これでパンツ好きが少しでも増えることを祈いつつ……



おくづけ

QUICK COMMUNICATIONS

発行

サークル もみの木

著者

遠田 春景

<http://www.donguri.sakura.ne.jp/~mominoki/>

発行日

2008.8.17

印刷

(有) ねこのしっぽ

〒211-0001

神奈川県川崎市中原区上丸子八幡町816

TEL044-430-3767

<http://www.sippo.co.jp/neko/>

☆18歳未満の方のご購入はお断りいたします☆



[HTTP://WWW.DONGURI.SAKURA.NE.JP/~MOMINOKI](http://www.donguri.sakura.ne.jp/~mominoki)